

1 上尾市自転車のまちづくり基本計画の概要

1-1 計画策定の背景

第2期都市計画マスタープラン『上尾市都市計画マスタープラン2010（平成23年3月）』において、将来都市ビジョンとして「質の高い居住環境と自転車のまち“あげお”」を掲げ、本市の都市特性を生かした魅力あるまちづくりに取り組むため、市民・事業者・行政の協働の理念の下に自転車施策を推進し、かつハードからソフトまで総合的な自転車施策を横断的に展開するため、平成26年3月に『上尾市自転車のまちづくり基本計画』を策定。



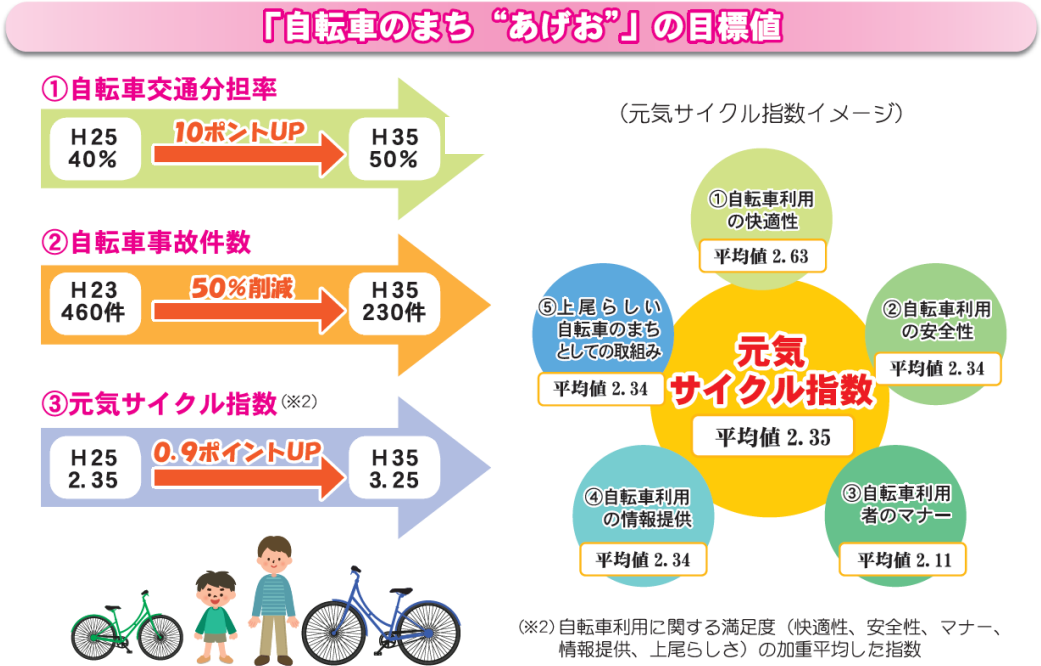
1-2 「自転車のまち“あげお”」の目標・ビジョン

「自転車のまち」として、
①自家用車に過度に依存しない街づくり、
②地球環境に配慮した街づくり、
③健康増進の街づくりを実現するため、
計画の目標・ビジョンとして、
（1）自転車が快適に利用できるまち、
（2）自転車マナーが良く安心・安全なまち、
（3）上尾市＝自転車とイメージされるまちの
3つを定めた。



1-3 計画の目標値

計画の目標値として、
①自転車交通分担率、
②自転車事故件数、
③元気サイクル指数
（自転車利用の満足度）
を目標指標として定めた。



2 評価の視点、手法

2-1 施策について

計画に定めた目標・ビジョン「（1）自転車が快適に利用できるまち（2）自転車マナーが良く安心・安全なまち（3）上尾市＝自転車とイメージされるまち」について、施策の実施状況やその結果を考察するものとした。
加えて、自転車に関する市民アンケート調査を実施し、その結果を踏まえて目標値（目標指標）の状況等について評価するものとした。

2-2 市民アンケート調査について

本市の自転車利用の現状把握や、これまでの自転車施策の取組を評価し、今後の本市の自転車施策のあり方検討の参考とするため、令和5年に市民アンケート調査を実施した。

〈アンケート調査結果概要〉

対 象	16歳以上の上尾市内在住者
抽 出	無作為（2,000人）
実施方法	調査票を郵送配布し、郵送またはWEB回答による回収
実施時期	令和5年11月30日（木）～令和5年12月31日（日）
回 収 数	668通（郵送：453通、WEB：213通）
回 収 率	33.4%
設 問 数	15問

〈設問概要〉

設問分類	設問	目的
① 回答者属性	・問1 年齢 ・問2 職業 ・問3 居住地区 ・問4 車の運転免許保有状況	・回答者属性による利用、ニーズの違いの把握
② 利用状況と課題	・問5 主な交通手段 ・問6 自転車の利用頻度 ・問7 自転車の利用目的 ・問8 自転車の使用理由 ・問9 自転車利用の不満	・利用状況の現状や利用者の自転車に対する意識の把握 ・自転車利用に係る課題（改善点）の把握
③ 上尾市の自転車施策	・問10 自転車レーンの整備状況 ・問11 自転車レーンを整備すべき場所 ・問12 自転車活用推進の重要施策 ・問13 自転車利用の取組みの満足度	・自転車施策の取組評価の把握
④ 今後の自転車施策	・問14 自転車利用環境の向上のため、今後必要な自転車施策	・自転車施策に係るニーズ等の把握
⑤ 自由意見	・問15 自由記述	・自由意見の聴取

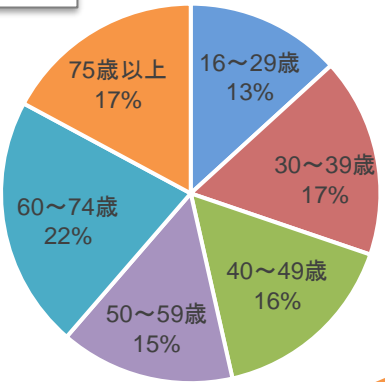
資料－2 市民アンケート調査結果

資 5

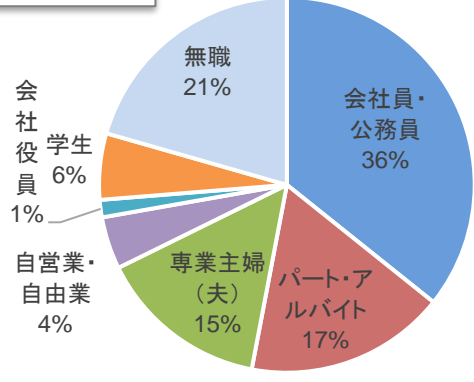
① 回答者属性

- ・ 郵送とWEBによる回答を組み合わせることで、地域や年代等に偏りのない回答を得られた。

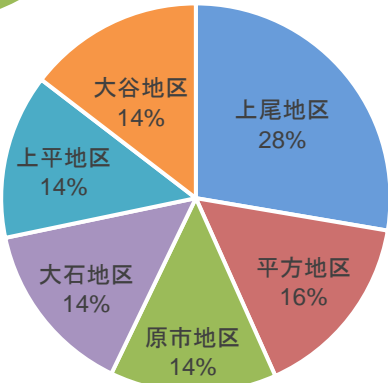
問1 年齢



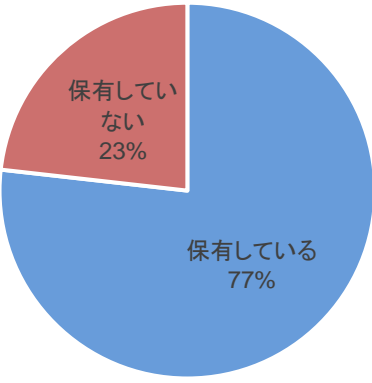
問2 職業



問3 居住地区



問4 車の運転免許保有状況

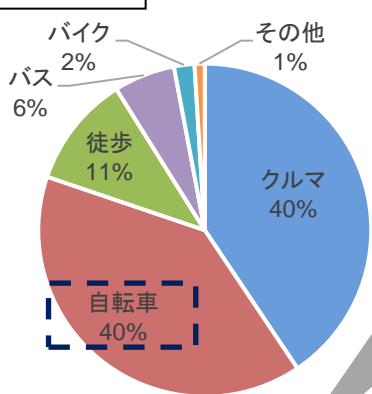


② 利用状況と課題

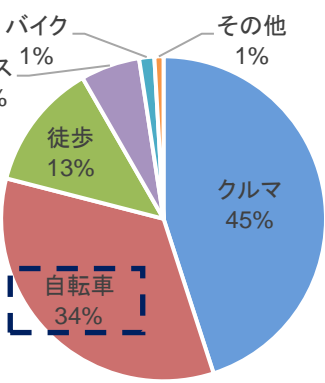
問5 市内で主に使う交通手段

- ・ 自転車を主な交通手段と答えた方の割合は34%であり、10年前の調査より6%減少した。

平成25年



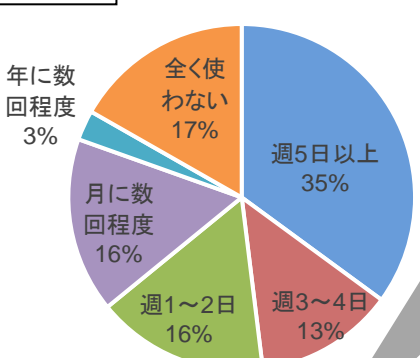
令和5年



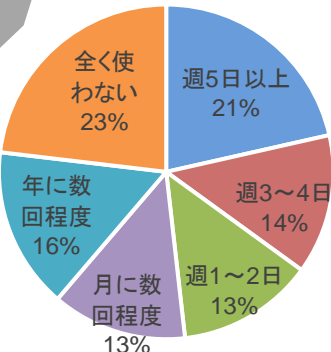
問6 自転車の使用頻度

- ・ 自転車を週5日以上使用する人の割合は、10年前の調査より減少した。
- ・ また、自転車を全く使わないと回答した人の割合が増加した。

平成25年



令和5年



問7 自転車の利用目的

- ・ 自転車の利用目的は、買い物や通勤・通学などの日常的な利用に多く使われている。

問9 自転車利用の不満

- ・ 自転車を利用するときの不満な点は、悪天候時に利用しにくい点のほか、走行環境が整っていない、運転時に危険を感じるといった点を挙げる方が多い。

③ 上尾市の自転車施策

問10 自転車レーンの整備状況

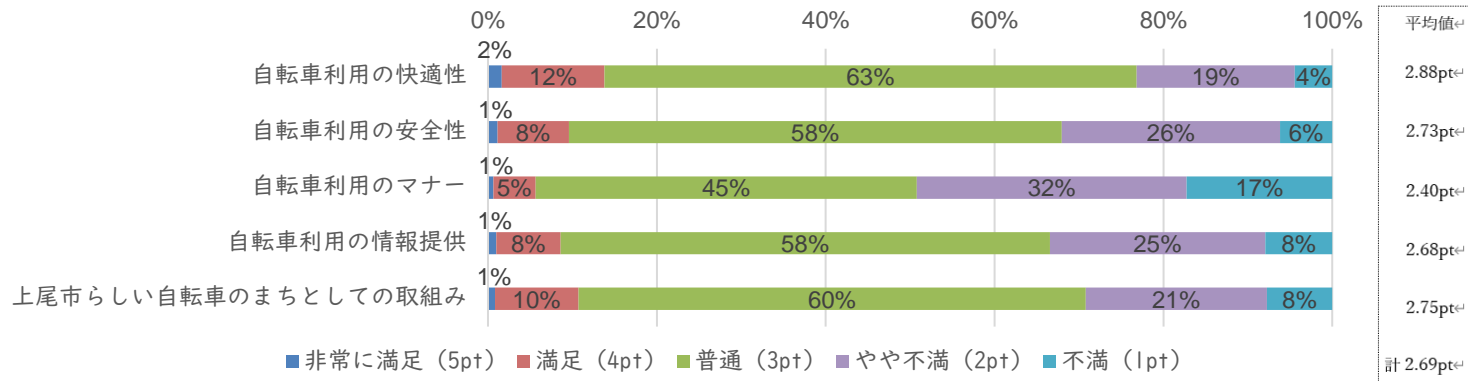
- ・ 自転車の走行時に危険を感じる方や、整備状況に満足していない方が多い。
- ・ 一方で、自転車レーンの整備により、自転車や歩行者が安心して通行できるようになったとの回答も一定数得られた。

問12 自転車活用推進の重要施策

- ・ 自転車の活用推進のため、自転車が走りやすい走行空間を整備することが重要と回答した方が最も多い。
- ・ また、安全な自転車利用の呼びかけや、自転車の駐輪環境の充実を挙げる方も多い。

問13 自転車利用の取組みに対する満足度

- ・ 自転車利用の快適性に関する取組みに対する満足度が、他の項目に対して相対的に高い。
- ・ 一方で、自転車利用のマナーに関する取組みに対する満足度が、他の項目に対して相対的に低い。



④ 今後の自転車施策

問14 自転車の利用環境向上のために必要な取り組み

- ・ 自転車の利用環境向上のために必要な取り組みとして、自転車通行空間の整備・改善を挙げる方が最も多い。
- ・ そのほか、駐輪対策や免許返納者への電動アシスト自転車の購入補助を挙げる方が多い。

⑤ 自由意見

問15 自由記述

- ・ 自転車利用者のマナー向上や交通ルールの遵守に対する意見が多い。
- ・ そのほか、自転車レーンなどの自転車の走行環境に関する意見もみられた。

3 施策の取組状況と評価

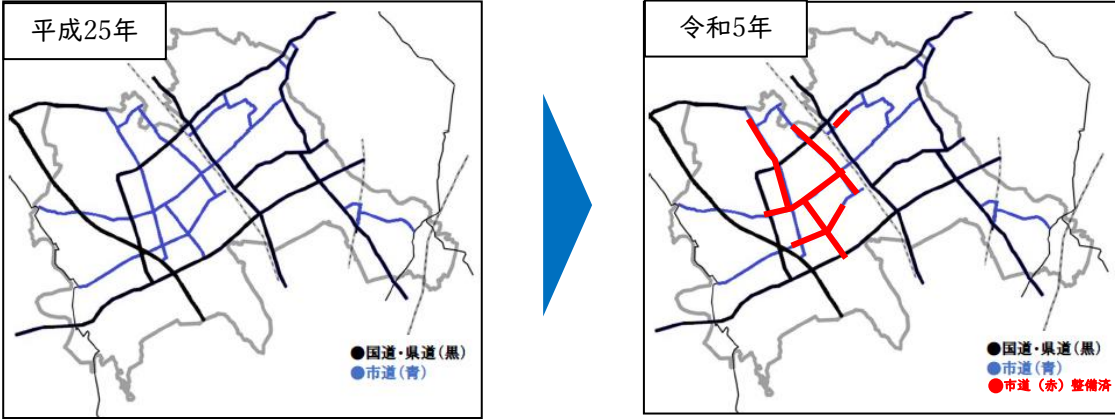
3-1 施策の取組状況

(1) 自転車が快適に利用できるまち

① 自転車レーンの整備

概要	自転車利用者が多い商業施設や事業所、UR団地を中心として、市内の拠点となる施設をネットワーク化する考えにより、『上尾市自転車ネットワーク計画』を定め、市道32kmの区間に自転車レーンの整備するもの。
結果	令和5年時点で、市道約10.3kmの区間（約32%）において自転車レーンの整備が完了し、自転車の通行箇所の明確化と自転車ネットワーク形成により、快適な自転車走行空間が創出された。

■上尾市自転車ネットワーク計画に基づく整備状況



② 自転車レーン通行状況の調査

概要	自転車レーンの整備が完了した路線において、自転車レーン整備前と整備後の自転車の通行状況（歩道通行、車道通行）を把握するもの。
結果	自転車レーン整備前後において、歩道を通行する自転車の割合が10%減少し、車道（自転車レーン）を通行する自転車が12%増加したことから、自転車レーンの整備によって自転車の通行空間が明確になり、車道（自転車レーン）への自転車の誘導効果が一定程度確認できた。 一方で、車道や歩道を右側通行（逆走）する自転車も依然として多いことが確認できたことから、自転車の正しい通行ルールの理解周知が課題である。

■自転車の通行状況調査結果の一部（都市計画道路中新井小泉線）

（整備前）	（整備後）
車道左側： 966台（28%）	車道左側： 1,142台（40%）
歩道左側： 1,358台（40%）	歩道左側： 847台（30%）
車道右側： 58台（2%）※逆走	車道右側： 76台（3%）※逆走
歩道右側： 1,016台（30%）※逆走	歩道右側： 780台（27%）※逆走

③ 路上駐輪場の設置可能性

概要	自転車利用者が多く利用する駅や商業施設周辺の違法駐輪対策として、一部歩道空間を活用した“路上駐輪場の設置可能性”について検討するもの。
結果	社会実験の結果、無秩序な自転車の歩道内駐輪は大幅に改善し、視覚障害者誘導用ブロックが塞がれることがなくなるなど、歩道環境が改善された一方で、北上尾駅利用者等による放置自転車が增加するなどの課題もあった。 なお、本社会実験の結果等を踏まえ、商業施設管理事業者と協議を重ね、商業施設敷地内において自転車駐輪スペースの増設や自転車利用者の誘導を強化することとした。

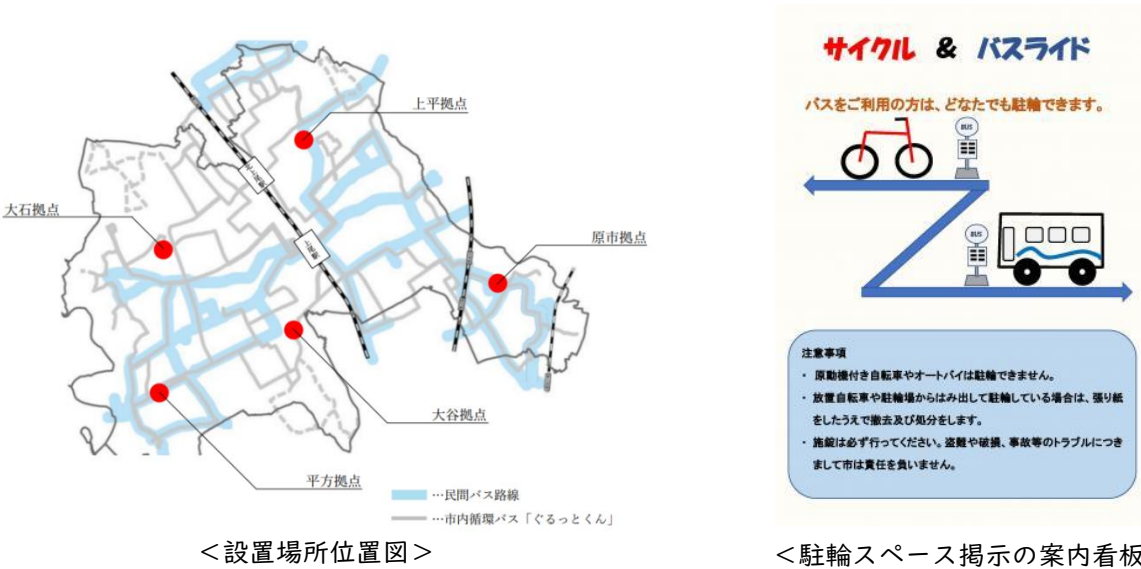
■社会実験の実施状況



④ 公共交通との連携

概要	市民の移動手段の選択肢を増やすとともに、クルマから自転車および路線バスへの転換による市中心部の渋滞緩和、環境負荷の軽減、自転車とバスの相互利用促進を図るため、サイクル&バスライドを推進するもの。
結果	今後バス利用者の自転車利用状況について確認するとともに、さらなる展開の必要性や課題等について検証する。

■サイクル&バスライドの試行状況



3 施策の取組状況と評価

3-1 施策の取組状況

(2) 自転車マナーが良く安心・安全なまち

① 自転車マナーアップ教室の開催

概要	小中学生を対象として、安全な自転車利用に向けた走行指導や講習を行うもの
結果	小中学生への自転車ルールの認識や、マナー意識向上が図られ、将来にわたる安全な自転車利用に資する取組みとなった。



＜走行指導＞



＜自転車安全標語＞

② 自転車運転免許取得講習会の実施

概要	高齢者を対象として、自転車の安全な運転技能や交通ルールを習得し、講習会の受講後に実施する試験の合格者に「自転車運転免許証」を交付するもの
結果	市民団体と上尾警察署にて役割を分担した体系的な交通ルール・マナー教育が実施でき、高齢者の安全な自転車資料に資する取組みとなった。



＜座学講習＞



＜実技試験＞

③ 自転車の乗り方・楽しみ方講座の開催

概要	中高年層の自転車利用を広めるため、自転車の乗り方・楽しみ方講座を実施するもの
結果	安全教育等の実施に加えて、医学的見地からの説明により、中高年層への安全な自転車利用や、健康面での自転車利用促進につながる取組みとなった。

＜左：講座開催案内、右上（下）：講座写真＞



(3) 上尾市＝自転車とイメージされるまち

① サイクルマップの作成

概要	寺社仏閣や公園など、市内の見どころスポットを安全・安心に見て回ることができるルートを選定した「上尾サイクルマップ」や、上尾市近郊を巡ることができる「上尾近郊サイクルコースマップ」を作成し、市内外の自転車利用者等へ周知するもの。
結果	市内公共施設や自転車店などで配布を行ったことで多くの市民に広まったことや、市民がつくったサイクルマップとして新聞記事に掲載されたことで、「自転車のまち“あげお”」というイメージの浸透に貢献した。

＜上尾サイクルマップ＞



＜上尾近郊サイクルコースマップ＞



② サイクルイベントの開催

概要	産官学の協働により、市内サイクリングイベント「スマートサイクルフェスタ」を開催し、自転車の魅力発信を行ったもの。
結果	自転車の魅力発信を積極的に行ったことで、「自転車のまち“あげお”」のPRに寄与したと考えられる。 一方で、市が主導する事業として、財政的な負担も考慮しつつ、これまでの実績と効果等により、イベントの役割は一定程度果たされたことから、現在は実施していない。

各回の会場および参加人数	会場	参加人数
第1回（平成25年度）	上尾丸山公園	2,500人
第2回（平成26年度）	上尾丸山公園	2,700人
第3回（平成27年度）	上尾丸山公園	3,000人
第4回（平成28年度）	アリオ上尾	3,500人



③ 健康モニターの実施

概要	自転車と健康の相関関係を指標データにより客観的に検証し、効果を明らかにすることで、自転車利用による市民の健康増進を図るもの。
結果	半年間の検証の結果、体重や腹囲、中性脂肪といった各種数値の改善がみられた。 また、参加者の多くから「体を動かすことが精神面での良い影響を感じる」という意見がみられたことから、自転車利用が身体的かつ精神的な健康増進に対して効果があると実証できた。

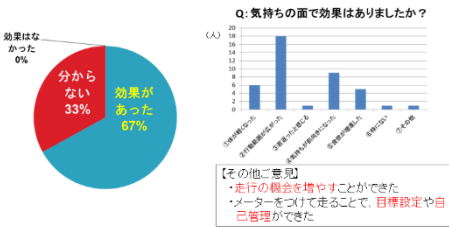
【身体測定結果】

	平均値	最大減少値
体重(kg)	▲1.0	▲1.9
体脂肪率(%)	1.0	▲1.7
腹囲(cm)	▲1.7	▲11.0
BMI	▲0.4	▲2.1

【血液検査結果】

項目	正常値	異常値	人数	改善率
GOT	—	0	0	—
GPt	0%	1	0	—
Y-GDP	10%	0	1	—
中性脂肪	50%	4	2	▲25.0
HDL	50%	4	2	▲6.7
血糖値	33%	3	1	▲13.5
HbA1c	0%	3	0	▲0.7

アンケート結果(健康増進への効果)



3分の2の方が健康増進への効果を実感されています
精神面での良い影響を感じる方が多くいらっしゃいました。

3 施策の取組状況と評価

3-2 目標指標の状況

P 18

① 自転車交通分担率

目標指標	平成25年 市民アンケート調査 (基準値／目標値)	令和5年 市民アンケート調査 (現状値)	増減	評価
自転車交通分担率	40％／50％	34％	－6％	未達成

② 自転車事故件数

目標指標	平成23年「交通事故統計資料HAND BOOK」 (基準値／目標値)	令和4年「交通事故統計資料HAND BOOK」 (現状値)	増減	評価
自転車事故件数	4 6 0 件／2 3 0 件	1 6 2 件	－ 2 9 8 件	達成

③ 元気サイクル指数（自転車利用の満足度）

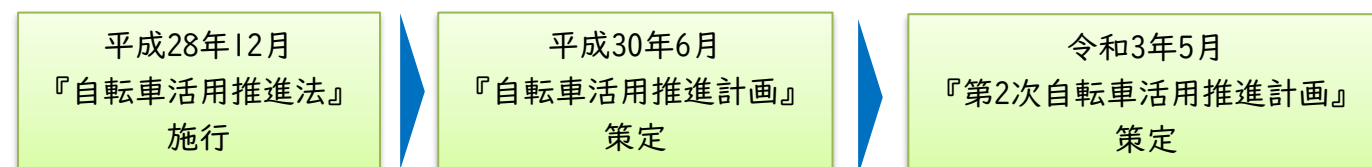
目標指標	平成25年 市民アンケート調査 (基準値／目標値)	令和5年 市民アンケート調査 (現状値)	増減	評価
元気サイクル指数	2.35／3.25	2.69	-0.56	未達成

4 今後の自転車施策の方向性

4-1 自転車を取り巻く国及び県の動向

P 2 3

(1) 国の動向



(2) 県の動向

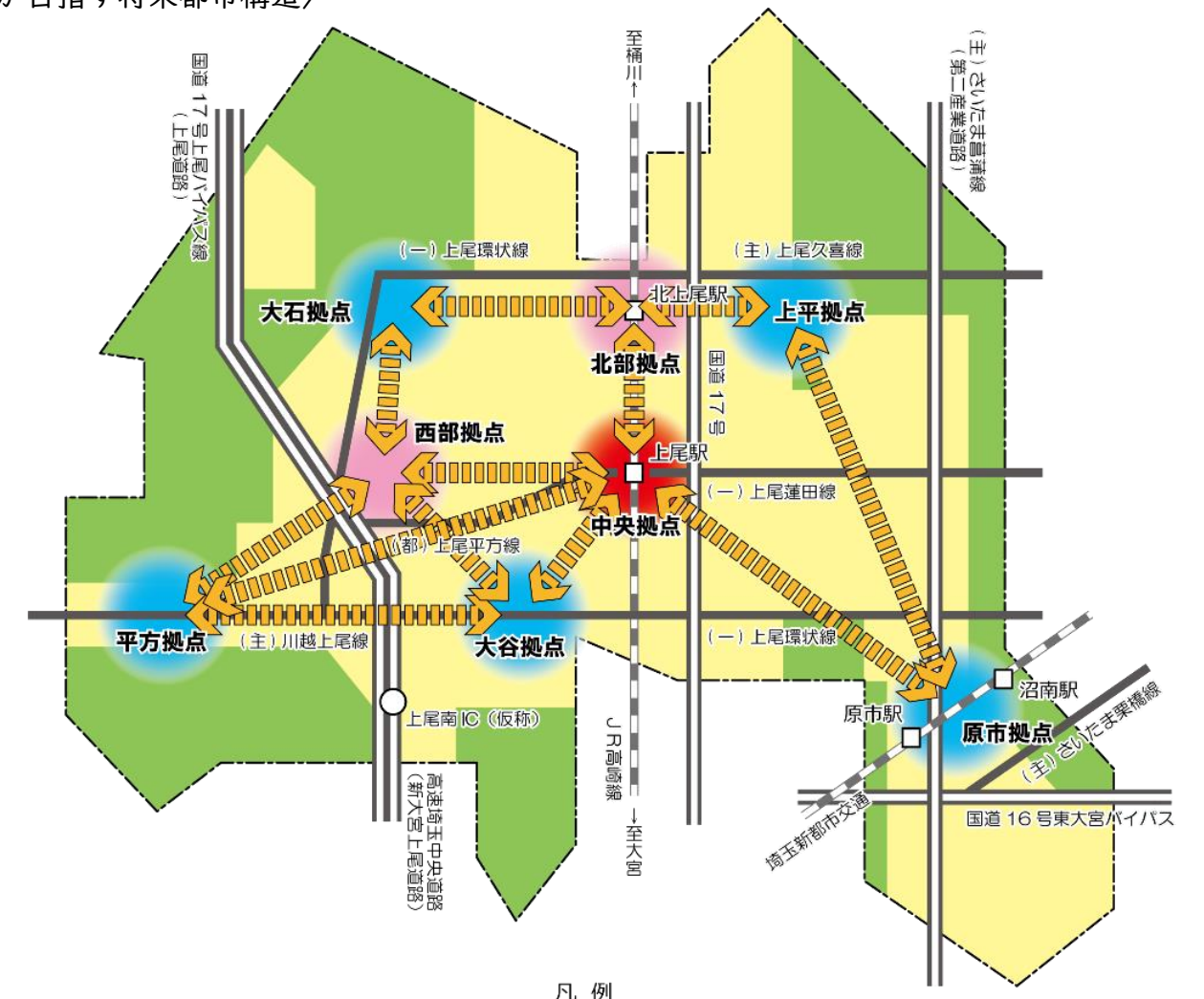


4-2 上尾市における自転車施策の位置付け

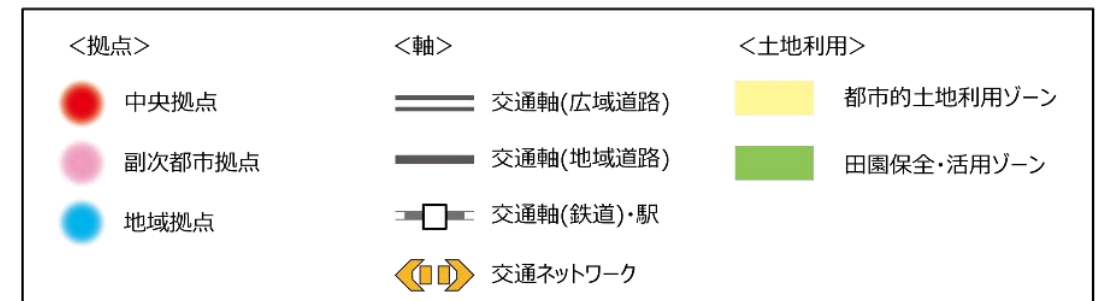
P 2 6

- 『上尾市都市計画マスタープラン2020』では、これまで以上に市街地の人口拡散を防止し、住民の生活利便性を維持・向上や地域経済の活性化、行政サービスの効率化などにより“持続可能な都市経営”を実現する「コンパクト・プラス・ネットワーク」型の将来都市構造を目指すこととしている。
- 本市は、この将来都市構造の考え方を主軸とし、公共交通の強化を図る中であって、自転車は、バスへのアクセスや市内循環など“公共交通を補完”する身近な移動手段として位置付けており、誰もが安全で安心して自転車を利用できるよう、その周辺環境整備に重点を置いた自転車施策を展開していくこととしている。

〈上尾市が目指す将来都市構造〉



凡 例



4 今後の自転車施策の方向性

4-3 今後の自転車施策の方向性

P 2 7

（1）安心・安全な自転車利用に向けた周辺環境整備

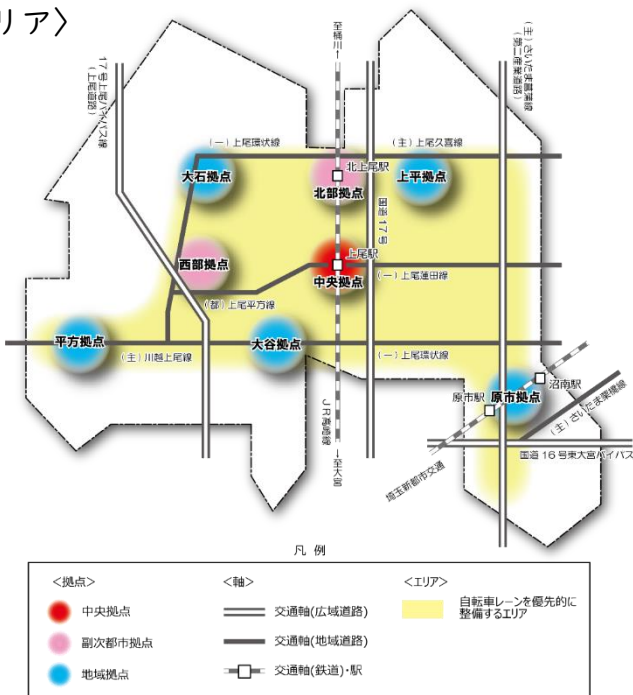
① 自転車走行環境の整備・改善

P 2 8

➤ 自転車レーン設置の継続的な推進

ー自転車ネットワーク計画の整備選定路線や都市計画道路などの幹線道路の区域内の既存道路や、新たに整備する幹線道路

＜自転車レーン整備優先エリア＞



② 総合的な駐輪対策と公共交通との連携の推進

- 市営・民営の自転車駐車場設置箇所の周知、市営自転車駐車場の維持・運用による適切な駐輪台数の確保
- 「上尾市自転車放置防止条例」に基づく「自転車放置禁止区域」の周知徹底と、区域内の放置自転車の撤去の実施
- サイクル&バスライド駐輪スペースのさらなる候補地の検討

③ ルールやマナーの周知・啓発

- 学校や警察、関係団体などと連携を図り、自転車安全利用の啓発の継続実施
- 自転車利用者のヘルメット着用推進のため、周知などの各種施策の実施
- 自転車損害保険等への加入に関する、市ホームページ等による周知・促進

（2）その他の施策の検討

P 3 4

① サイクリングロードの活用

- 上尾サイクリングロードや緑のヘルシーロードにおける、地域資源を生かした活用方策の継続検討
- 国が推進するサイクルツーリズム施策である「モデルルート」登録への対応

② 自転車利用増進に向けた施策

- あらゆるライフステージを支えるモビリティとして、身近な移動手段の確保に向けた支援施策の必要性やあり方についての検討

（3）自転車活用推進計画

P 3 7

- 本市の自転車の利用状況は、自転車利用に有利な条件が揃っている都市特性から、自転車交通分担率として高い水準にあり、特に移動・交通面でのさらなる充実が求められていることから、安心・安全な自転車利用に向けた周辺環境整備に重点を置いた施策を展開することとし、現時点では『自転車活用推進計画』の策定に向けた検討には着手していない。
- 今後、安心・安全な自転車利用に向けた周辺環境整備による移動・交通面での充実に加えて、自転車活用の効果として期待できる「健康」「環境」「観光」などといった各分野が所管する計画において、自転車と連携した取組みが位置付けされ、さらなる自転車活用促進が掲げられる際には、それらの計画を調整し、総合的な自転車施策について取りまとめる『上尾市版自転車活用推進計画』策定の必要性について検討していくものとする。

＜自転車活用推進計画による各種計画調整のイメージ＞

